

効率的に語彙力を強化! 「語源」で覚える 英単語

ポキャブラリーを増やすのに、ただやみくもに単語を増やしていくというやり方は効率的ではありません。

そのような覚え方では、以前に覚えた単語がアタマから出て行ってしまいそうです。

それよりも、なんらかの「とっかかり」を元に、「まとめて」覚えてしまうようにしましょう。

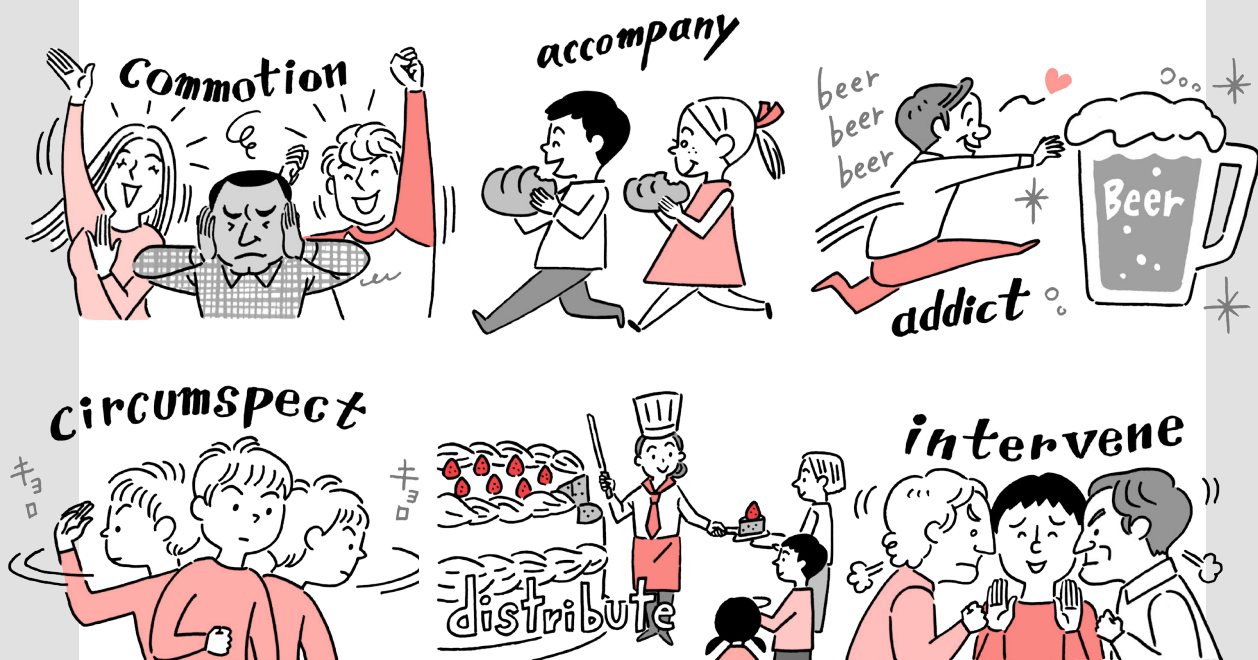
例えば、類義語と反意語をまとめて覚える、

あるいは「政治」「経済」「科学」などといった「ジャンル」ごとにまとめていく方法が考えられます。

そして、もう1つ有用なのが、今回ご紹介する「語源」で覚えるポキャビルです。

共通の語根を持つ単語をまとめて覚えることで、飛躍的に語彙力をアップすることが可能です!

編集: 竹内佑介



なぜ、「語源=単語のルーツ」で語彙を増やせるか

語形成 (word formation) とは？

「水 (H₂O)」という「分子」は、水素 (H) と酸素 (O) という「原子」が結合してできたものです。「原子」は、さらに「電子」と「原子核」から成り立っています (原子核はさらに「陽子」と「中性子」に分解できます)。つまり、この世界を構成する「最小単位」は「水」のような「分子」ではなく、もっと小さい単位が存在するわけですね。

これと同じことが、言語にも当てはまります。英語の文章は、「段落」→「文」という単位を経て、「語」という単位に分解できます。しかし、「語」が最小単位ではないのです。多くの「語」は、さらに小さい単位である「形態素」に分解することができます。

例 unexpectedly → un + expected + ly
接頭辞 語根 接尾辞

例えば、unexpectedly (予想外に) という副詞は、打ち消しの「接頭辞」の un-、中心的な形態素である「語根」の expected (予想された)、そして副詞を作る「接尾辞」の -ly に分解できます (さらに言えば、expected も expect + ed に分けられます)。このような、「語の成り立ち」のことを、「語形成」といいます。

問題 以下の単語を「形態素」に分解してみましょう。

1. assistance
2. counterclockwise
3. hatred
4. logophilia
5. intact

解説

1. assist+ance

-ance は「…な状態」「…すること」という意味の名詞を作る接尾辞。「助けること」→「援助」。

2. counter+clock+wise

counter- は「反対の」「敵対する」という意味の接頭辞。-wise は「…の方式で」「…の方向に」などの意味を持つ接尾辞。clockwise (時計の回る方向に) に counter- が付くことで、「反時計回りに」という意味になる。

3. hate+red

-red は「状態」という意味の接尾辞。「憎んでいる+状態」→「憎悪」。

4. logo+philia

logo は「言葉」、-philia は「…に対する愛好」なので、「言葉好き」という意味になる。

5. in+tact

tact は「触れる」という意味の語根。これに打ち消しの接頭辞 in- が付き、「損なわれていない」「無傷な」という意味の形容詞になる。

英語の語彙

英語の単語の多くは、「ゲルマン語系」と「フランス語・古典語 (ラテン語・ギリシャ語) 系」の2種類に分けることができます。英語という言語は「インド・ヨーロッパ語族のゲルマン語派」に属しています。「ゲルマンの」とは Germanic、つまり「ドイツの」です。ドイツ語と英語は、「ゲルマン語」を共通の祖語としているために、文法的な構造が似ています。

ゲルマン語系の語は、英語の「大和言葉」のようなものであり、その多くは日常生活でよく使われる単語です。go (行く) や time (時間、時代)、word (語) などが、ゲルマン語系の単語です。

これに対して、フランス語・古典語系の単語は、言わば「外来語」です。論理的な話をしたり、芸術活動を行ったりする際に、英語という言語の中に借入されていたものです。

「フランス語・古典語系の単語」の特徴

1066年に、フランスのノルマンディー公ウィリアムがイングランドを征服します。この「ノルマン・コンクエスト」のあと約100年間、イギリスはノルマン人の支配下に置かれますが、支配者階級がフランス語を使っていたため、この時代に特に多くのフランス語が英語に入ってきました。

また、16世紀から17世紀にかけての、イギリスの「ルネサンス」の時期には、ラテン語などから多くの語彙が取り入れられています。ルネサンスは、端的に言えば「ギリシア・ローマ時代の古典文化の復興」です。ルネサンスの思想や学問が盛んになるのに合わせて、ラテン語・ギリシャ語の「高尚な」専門用語が使われるようになっていきました。

* * *

フランス語・古典語系の単語は、「語根」に分解して考えることで、ある程度意味の推測が可能です。共通の語根を有する単語をまとめて覚えることで、飛躍的に語彙力を伸ばすことができるようになります！

コラム①日本語由来の英語語彙

英語の「外来語 (借用語)」には、日本語由来のものも少なくありません。samurai (侍) や shogun (将軍)、typhoon (台風) や tycoon (大君) のような古典的なものだけでなく、最近の日本文化に由来するものもあります。以下は、必ず通じるというわけではありませんが、かなりの英語の母語話者が知っている単語です。

emoji (絵文字)、kaizen (〔トヨタ生産方式の〕カイゼン)、kawaii (かわいい)、karoshi (過労死)、otaku (オタク)、sudoku (〔数字パズルの〕数独) など。